



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 30 年 8 月 6 日 第 8 巻 (第 1 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 男のあそぼう会 同窓会
2. マラソン大会に参加しました！
3. ご挨拶
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 災害支援ニュース発行のお知らせ
6. 編集後記

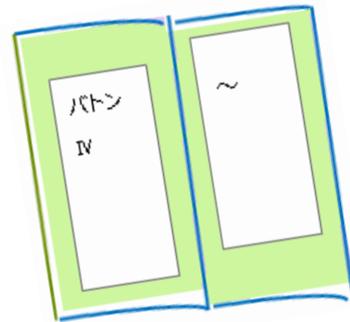
発 売 中

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援の
バトンI」 から

「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援の
バトンIV」までを発売しています！！

詳細は、協会ホームページ

及び [【1. 書籍販売】](#) をご覧ください。



《 支援活動地域別 仮設住宅報告 》

(宮城県保健福祉部震災援護室 仮設入居状況より抜粋)

石巻市応急仮設住宅現況報告

応急仮設住宅（プレハブ住宅）入居状況（H30年7月1日時点）

入居戸数 502 戸

入居人数 1,011 人

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況（H30年5月31日時点）

入居戸数 719 戸

入居人数 1,619 人

1. 男のあそぼう会 同窓会模様

西田さんが、男のあそぼう会同窓会の様子を手記にしてくださいました。
久しぶりに集まるメンバーとの交流が目につかびますね。

災害支援チーム

アドバイザー 西田 知佳子

当日は予想と違い、曇り少し晴れの天気、保健センターの3階には時間より早く4人のメンバーが集まる。スタッフは現地の5名のSW（ソーシャルワーカー）とボランティア参加の菊地SW、そして西田。

洗い上げた8合のその量に独居の西田は大感動。いくつかのグループに分かれて食事の支度をやる。元コック長だったSさんは元気のいい声で野菜のきり方を指南しながら肉を炒めている。30分ぐらいでカレー、野菜スープ、漬物が出来上がる。

まだ10時45分、昼食までメンバーさんは近況や日本協会（日本医療社会福祉協会）とのなれそめを話し始める。治療して眼がよくなったという高齢のSさんは、椅子が辛くなったようで、隣の部屋で横になりながら、久しぶりに会った菊地さんにずっと話続けている。台所では他のメンバーとスタッフが思い思いに椅子に座り皆の顔が見えるように座っている。

Sさんは災害当時のことを語り日本協会のSWの名前を次々と挙げながら「皆に助けてもらった」と感謝し、Gさんは復興住宅での周囲と遮断されているような生活の寂しさを訴え、「仮設ではさあー、隣の人がおかずを持ってきてくれた」と仮設時代を懐かしむ。Kさんも「（復興住宅では）人のいる気配がない。家族持ちの人もいるし、集会場とかあるが、特に集まりもなく、交流がない。」と強調。

あっという間にお昼タイムになり、テーブルの支度をやる。

みんなすごい食欲で、Gさんは入れ歯が合わないからと完全に歯がないのにも関わらず大盛のカレーをあっという間に平らげた。菊地SWの食べっぷりは素晴らしかった。食事中も思い思いに話をしていた。皆、「男のあそぼう会」を復活してほしい、という。Sさんはかつてのメンバーの名前を一人一人挙げ、こんなことがあった、あんなことがあったと思い出を語る。

食事の最後に、金崎SWが6月半ばで石巻を去ることを伝えると、メンバーさんは一応にがっかりと肩を落とす。空気が変わり静かになる。

食後の後片付けはスタッフが動き、わずかな時間で台所も食事をした部屋もきれいに片付けが終わる。再会を祈って男のあそぼう会同窓会は終了する。

菊地SWは「始まる前の、メンバーが会場となる保健センターの3階に集まりつつあるときの足取りと喜びをたたえた表情は、遠足に行くときの子どもたちの様子にそっくりだった。高齢の男性があんな雰囲気醸し出すんだ、と驚いた。」と感想を述べていた。この感想がその日の様子を的確に語っていると思う。

菊地SWさん、いつもありがとうございます。そして現地の福井・佐藤・金崎・菊田・清水SWさん、場所の予約、買い物、献立、メンバーさんの足の確保等様々な準備をありがとうございました。西田は当日参加させてもらうだけだけど、ぜひまた独居高齢男性の集まりをしましょう。

2. マラソン大会に参加しました！

災害支援チーム

石巻現地担当 佐藤 なおみ



6月24日に開催された、第4回石巻復興マラソンに事務所スタッフ5人で参加しました。全員5キロの部のエントリーです。6月で退職する金崎さんへのメッセージ入りのオリジナルTシャツを作って、気合十分です。笹岡統括と西田さんもこのマラソンのためにわざわざ石巻までお越し下さり、同じTシャツを着て応援してくださいました。

当日は夏のような日差しの快晴。今年の会場は例年とは変わり、石巻市総合運動場となりました。開会式で運動場内にある、旧国立競技場の聖火台に火がともされ、気分も高まり、いよいよスタートです。

走り出しは余裕だった私ですが、折り返しを前にもものすごく疲れてきました。早々と折り返しすれ違う菊田さん、清水さん、福井さん。折り返し付近までは一緒に走っていた金崎さんにも置いて行かれてしまいました。夏日の5キロは長く、足が止まりそうでしたが、沿道の「がんばれ」の声援はすごく力になりました。そして、ゴール手前に笹岡さん、西田さんがいてくれて、「あと、もう少しよ！」大きな声援をくれました。順位は菊田さん、清水さん、金崎さん、福井さん、佐藤の順でした。全員無事に怪我無くゴールできてよかったです。笹岡さん、西田さん応援ありがとうございました。

走ったあとは事務所で金崎さんの送別も兼ねて笹岡さん、西田さんと打ち上げ会をしました。ごはんを食べながら、金崎さんから今まで関わった住民さんとの思い出話を聞きました。最後に、関係団体からメッセージをもらった色紙を贈呈し、金崎さんの2年2か月の石巻での業務を労いました。

石巻復興マラソンは事務所スタッフ5人での最後のイベントとなりました。今までなかなか事務所内でイベントをするような機会がなかったのですが、金崎さんの送別を機にいい思い出が作れました。金崎さんがいない事務所はかなり寂しいですが、これからは4人で石巻での業務に励んでいきたいと思います。



3. ご挨拶

新任の挨拶

災害支援チーム

石巻現地担当 清水 大地



今年4月から日本医療社会福祉協会の災害支援チームに入職いたしました、清水大地と申します。出身は宮城県登米市で、スポーツ観戦と書道が大好きです。地元の高校を卒業してからは、栃木県の大学に進学しました。大学卒業後の就職も合わせ、7年間栃木県大田原市に住んでいました。その影響もあり、栃木県のプロバスケットボールチーム“リンク栃木ブレックス”の観戦は、宮城県に戻ってきた現在も熱が冷めず、シーズン中は毎月のように栃木県に足を運んでいます。

石巻市に来て、あっという間に3か月が経とうとしています。過ごしやすい気候と、地域の皆さんの温かさに、居心地の良さを感じているところです。災害支援チームは、石巻市出身のメンバーもいれば、千葉県出身のメンバーもあり、県内外の支援者の熱い思いに溢れています。地域の皆さんが、支援チームのメンバーにかける言葉の中に、この事業が、いかに大きな役割を担ってきたのを感じる日々です。

私は、大学卒業後から施設での勤務を続けてきました。施設で出会ってきた方々との間で、経験し学んだことや抱いてきた思いを、ここ石巻市でも活かせるように頑張っていこうと思います。少しでも早く、災害支援チームのメンバーと足並みがそろえられるように、精進していきます。これから宜しくお願いします。



退職の挨拶

災害支援チーム

石巻現地担当 金崎 慶大

(6月20日退職)



～石巻での災害支援を通して見えたもの～

東日本大震災が起こった2011年3月11日、学生だった私はテレビ越しに見る光景に驚きと怖さを感じた。それと同時に自分の身に起こったことでないことに安堵したことも覚えている。その後、岡山、広島でMSWとして働く中で震災の記憶もどこか遠くのものとなっていた。正直なところ、日本医療社会福祉協会の活動も認識したのは石巻にくる一年前ほどのことであった。災害を改めて意識するきっかけは広島で起こった土砂災害であった。泥の掻き出しにボランティアとして参加した際、被害にあった方が明るい表情で自宅の泥を掻き出すために先導している姿を見た時、何か違和感を抱いた。なぜ被害にあった状況で明るくいられるのか、ボランティアの私たちに気を使っているようにも見えた。そんな違和感を抱いたこと、また、その時MSWとして地域に出て活動することが多く、地域の中でソーシャルワークを展開することの難しさを抱いていたことが重なり、日本医療社会福祉協会の石巻での現地活動に興味を持ち始めた。考えるより先に現地のお話を聞くために笹岡統括と会い、石巻へ初めて出向くことに。震災5年目を迎えようとしていた石巻の状況は被災地であることが分からないくらいに復興していた。今思えば表面上に見えるものでしかなかった。そして、石巻へ行くことを決め、現地入りする直後に熊本地震が起こった。災害支援の経験がない自分が熊本に行くことはできず、石巻での活動に予定通り従事することとなった。

石巻に来ての半年間は来たことを後悔することも少なくなかった。自分の未熟さや先輩MSWたちとの差を感じ何もできていない自分に焦りを感じた。そんな時、自分の意識を変えさせてくれるケースと出会うことができた。石巻の活動を特別視し過ぎていたこと、今までの経験を少しでも多く還元することが今できることだと教えてもらった。それから目の前のことに没頭することができた。

この2年間で多くの方達から学びを頂いた。病院でMSWを続けていただけないもの聞こえない声に触れ、悩み、深く考えた2年間でもあった。大げさだと思われるかもしれないがここに来なければ気づかないものがたくさんあった。そして、広島で出会った被災者の表情を思い出しても今であれば違和感を抱くことはない。

自分自身にとって災害が遠いものから石巻での活動を通して自分の身に起こりうるものとして、MSWだからこそできることがあることを教えてもらった。被災地で働くことは個々の状況で簡単にできることではないし、自分も5年を過ぎたタイミングでしか動くことができなかった。災害直後の状況を想像する

と自分に何ができるのかも分からない。だが、現地に行かなくとも知りえる方法や考えることはできると
思う。災害支援からは離れることにはなるが、災害が次に起こった時、きっと他人ごとではなく、まず想
像し考え、そして、行動することを未来の自分に期待したい。その時、一人ではなく周りにいる人たちと
共に動くことも石巻で活動させて頂いた恩返しの一つとして心に置いておきたいと思う。

石巻で活動できたこと、出会えた方々に感謝し、これからも繋がりを続けていきたい。



4. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』の
販売を行っています！



発災から 2011 年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を
『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 1 2 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支
援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013 年 1 月
から 2014 年 3 月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動
支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バ

トンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この5月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014年4月から2016年3月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

バトンⅣ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんが VTR にまとめて下さいました。YouTube にアップしましたので、是非



ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

5. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 9月中旬

6. あとがき

災害支援チーム事務局から

編集担当 菊田

編集後記の担当を引き継ぎについて

この度、1年と数か月務めさせて頂きました、編集担当を清水さんに引き継ぐこととなりましたので挨拶させて頂きます。

災害支援ニュースを書き続けて、改めて、伝えることの大切さを実感することが出来ました。地元に戻ると、ニュースでも報道されなくなり、震災のことが何十年も前のようにも感じる場合があります。そこで、インターネット上ではありますが、今、石巻市で起こっていることをリアルに伝えることが出来たかと思っております。

これからも、災害支援ニュースを継続させ、全国の皆様に読んでいただければと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。



東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 30 年 8 月 6 日 第 8 巻 (第 1 号)
作成 日本医療社会福祉協会
災害支援チーム事務局